

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270200668		
法人名	千葉勤労者福祉会		
事業所名	グループホームひまわり		
所在地	千葉市花見川区幕張町5-225		
自己評価作成日	令和3年12月20日	評価結果市町村受理日	令和4年4月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7		
訪問調査日	令和4年2月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者一人一人の生活歴や嗜好などを把握し、認知症の状態である方の行動心理症状が起こる理由やそれに伴う介護支援の根拠を考えながら支援にあたっています。
 職員間の言葉遣いが高齢者支援の場において適切なものであるように、常に意識しています。
 園児との交流やボランティアさんとのつながりがコロナ禍において今まで通りいかないなかでも、お手紙や作品物を通してつながりを保っていけるように努めています。
 季節感を大事にした行事を計画しています。
 終末期においても「その人らしさ」を大切にした支援を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念は「ここに住んでいる方々の「その人らしさ」「生き方」「したいこと」を尊重し、地域に開かれたホームを運営していきます。」で、ホーム内に掲示し、ホームページにも掲載している。利用者は、居室掃除、洗濯、食事作り、後片付けなどを職員の見守りのもとおこなっており、利用者が役割を持ち、残存機能を活かすよい取り組みだと思われる。看取りについては「看取りに関する指針」があり、入居時に本人・家族に説明をしている。職員は看取り経験が豊富である。コロナ禍以前は地域との交流が盛んで、法人のお祭りは近隣住民の参加があり、近隣保育園園児とも交流があった。また、福祉専門学校の実習生を受け入れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内に理念が掲示しており、常に見えるようにしている。 「職員14か条」として理念を具体的に実践形式で記したものが掲示してある	理念は「ここに住んでいる方々の「その人らしさ」「生き方」「したいこと」を尊重し、地域に開かれたホームを運営していきます。」で、ホーム内に掲示し、ホームページにも掲載している。管理者は「指示命令しないこと」「自分がされていやなことはしない」ことを徹底している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	本年度はコロナ禍で行えていないことも多いが、地域の保育所との交流やボランティアの受け入れなど行っている	コロナ禍で制限しているが、近隣の保育園児との交流したり、福祉専門学校の実習生を受け入れている。現在は近隣の散歩などに留めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護活動交流集会の開催 定期的に書面での交流をしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本来であれば3か月に一度の開催であったが、コロナ禍ということもあり、書面での開催としている	運営推進会議には家族、友の会担当者、地域包括支援センター職員などが参加しているが、現在は書面開催としている。ホームや入居者の状況および行事報告、事故報告などを行っている。また別途、参加者から意見を収集している。	運営推進会議は書面でのやり取りで、利用者家族をはじめ、広く参加者からの意見を受け付けている。意見についてはホームの対応を検討し、返すことで双方向の会議となると思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設長が窓口となり、区役所の各担当者と連携を図っている	市の担当課には何かあれば報告や相談をしている。地域包括支援センターは運営推進会議のメンバーでもあり、情報交換をしている。いずれも良好な関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中の玄関の開錠やベッド4点柵をしないなど、身体拘束に対し意識を高く持ち支援している	身体拘束適正化委員会を3か月に1回実施しており、身体拘束の適正化の研修の場ともなっている。今後はIT環境を利用して、動画での研修を検討している。また、日常的に職員同士で互いに注意できる環境にある。現在、身体拘束はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉遣いなどの些細なところからも会議にて取り上げ、意識している。 研修や学習会に参加し学びの機会を増やしている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	独居で親族もいない方などには後見人をつけて対応などしている。 学習会や研修などで権利擁護について学ぶ機会がある		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結は施設長が行っている。家族や利用者からの相談に対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	カンファレンスや往診ごとに何かあれば家族に報告、相談とともに支援を考えている。	電話や訪問時に意見を受けている。また、運営推進会議の議事録を送付の際に、運営に関する意見を聞いている。利用者家族の意見を反映して、ITの利用促進を図り、記録はタブレット入力とし、職員の負担軽減等につなげた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議などで意見や提案などを共有し議論しています。 日常のケアにおいても、意見の聞き取りや共有ノートの活用をしている。	月次のフロア会議、申し送りなどを利用して日常的に話し合うことができている。個人面談も実施している。職員の意見から、トイレのペーパータオルの位置や使用方法を改善した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談で意見や思いを伝えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々のスキルアップに応じた外部研修や学習会への参加を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所内研修や学習会などの参加を通じて交流し質の向上を図っている。		

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面接にて家族や利用者から話を聞き、不安や困っていることや生活のサイクルなどを把握している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に施設見学を行い、入居のイメージができるように支援している。 家族の要望や困っていることを把握し、事業所で行えることを説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要望を十分に理解したうえで支援を考え、ケアプランへと反映している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事業所の理念に基づき、職員は手伝いをさせていたでいる立場であり、必要以上に手を出さず、利用者のできる力を見極め支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度近況報告の写真付きの手紙を出している。 3か月に一度事業所の行事をまとめたものを発行し送っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	写真を見ながら、その方について話したりしている。 時候の手紙を通じて交流をしている。	コロナ禍以前は、墓参りや近隣のコンビニでの買い物などを自由におこなっていた。現在は電話の取次ぎや手紙のやり取りの支援などを行っている。コロナ禍当初より現在まで、感染症予防対策を徹底したうえで、ビニールカーテン越しの面会を可能としている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂の座席など工夫し利用者同士が良好なコミュニケーションを図れるよう支援している。 レクリエーションや共同の創作などを通じて関係の構築ができるようにしている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	イベントにお誘いしている。 時折電話での様子伺いをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全職員の意見や想いを集約したうえでカンファレンスを行っている。 毎月の会議などでケアの統一を図ったり、ケア方法の見直しなどしている。	利用者の意向等は、職員がつぶやきや日常会話から収集して記録をし、職員が共有している。また、日々の支援方法を職員で検討して評価をおこない、現状に即した計画になるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人ファイルを活用し、生活歴やサービス歴など把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や申し送りなどの情報交換をしていきその人の生活リズムの把握や日々の変化に注意し支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者ごとに担当する職員をつけ、その職員をもとにカンファレンスや家族との連携を図っている。また家族や多職種の意見も踏まえてケアプラン作成をしている。	利用者を担当する職員を中心に、カンファレンスにて、職員や家族の意見を踏まえたケアプランを作成している。ケアプランで掲げた目標の達成状況は、毎月のモニタリングで確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の生活記録で日々の生活の様子や特記などを記載し、職員で共有している。共有ノートを活用し、実践の中での気づきや意見を取り入れている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問歯科や訪問リハビリなどのサービスを取り入れている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域に出かけることは少なくなったが、近所のグランドまで散歩に行き、挨拶程度の交流をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医がある方においては、家族を通じて受診の支援をしている。民医連グループとの連携もあるため、提携の病院からの往診や受診などの協力体制があり、24時間の訪問看護とのつながりもある。	連携先の医療機関が往診に来ており、24時間体制で対応してくれる。グループホームの看護師と訪問看護師で、利用者の医療情報を共有して、健康維持に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所の看護師が出勤時には介護士より申し送りを通じて情報交換をしている。週に一度事業所の看護師と訪問看護師でもカンファレンスを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	施設長が窓口となり、病院関係者と連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期にはカンファレンスを行い、見取りのケアプランを作成し、医療、介護、家族等で連携し、支援している。	重度化や終末期に向けた方針については、契約時にホームとして取り組める事を説明し、方針を共有し、看取りの希望を確認している。終末期には主治医、家族等や職員と今後の方針を再検討し、看取りのケアプランを作成して、支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や緊急時のマニュアルがあり常にみられるようにしている。AEDの設置場所など全職員が把握している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人での避難訓練の実施をしている。マニュアルがある。	避難訓練は年2回実施している。事業継続計画は感染症について作成している。また、ハザードマップでホームの状況を確認している。	昨今は想定外の災害も多くなっている。さまざまな災害を想定した訓練の実施も検討されたい。

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会議において、定期的に言葉遣いについて取り上げている。 尊厳を意識し声掛けや距離感を常に考え、支援している。	利用者一人ひとりの尊厳を守るために、言葉遣いを重点的に会議でも取り上げ、研修を実施している。トイレ誘導や入浴時などの声掛けも、プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員本位とならないよう、常に選択ができる環境づくりや声掛けを意識している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムを把握し、その人一人ひとりに合わせたペースで支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整容や着替え時の服の選択など、その人らしい身だしなみができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や片付けを一緒に行っている。食事によって利用者と食器を選んでいる。	朝食と夕食は給食サービスを利用しているが、味噌汁はホームで作っている。昼食は利用者の希望を聞いてメニューを決めて、参加できる利用者と職員で調理している。誕生日などには、ケーキを手作りしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事の摂取状況を記録し、把握している。 個々に合わせて食べやすいように食形態や食具を変え支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全利用者が毎食後の口腔ケアの実施はできていないが、半数ほどは実践できている。 また、夕食後は全員行えている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録を行い、個々の排泄パターンの把握に努め、声掛けや誘導を行っている。カンファレンスなどで、その都度排泄の状況を確認しアイテムなど検討している。	排泄パターンを記録しており、排泄の自立に向けて、できるだけトイレに行けるように支援している。また、自然な排泄につなげるために、牛乳を提供したり、体を動かすことを支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師、看護師と連携し、下剤の調整をしている。 水分摂取や運動を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2日のペースで入浴できるよう、個々の希望やタイミングを見て支援している。	週に2回～3回の入浴を支援している。入浴をしたくないという場合は、声かけを工夫するなどしている。希望に応じて、同性介助にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	適宜、休みたい時には臥床時間やリラックスできる空間の提供などを行っている。 活動量などを考え、一日のトータルで見ている。個々に合わせた、入床の支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の内服薬の情報はいつでも見られるように、ファイルにまとめている。新たな処方や変更があった際には共有ノートで情報の共有を図っている。 個々の内服方法などを把握し、確実に内服できるよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩や音楽、TV、本など個々の趣味、趣向に合わせて、環境を整え支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日中には玄関は施錠しておらず、自由に行き来ができるようにしている。日常的に庭や近所まで散歩に出かけている。 コロナ禍が続き、他への外出は控えている。	コロナ禍以前は、ホームセンター、コンビニエンスストアへの買い物などに出ていた。現在は、ホームの周りを散歩したり、外気浴を出るだけにするようにしている。	

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じて現金を所持している方もいるが、基本は職員が管理している。家族からの預り金があるため、利用者が希望や必要なものはそこからだして購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員が家族へ電話をした際には、電話を取り次いでいる。時候の手紙を出すなど支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに飾り付けを行い、生活感や季節感を感じてもらえるように環境整備している。常に清潔が保てるように、随時消毒や清掃を心掛けている。	共用の空間は、利用者にとって不快な感じや混乱を招くような刺激がないように配慮している。リビングには季節感のある飾り付けをしている。清掃は専門の業者に委託しており、換気や室温調整などは、職員が適宜おこなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や各居室において、個々が思い思いに過ごせる環境整備をしている。都度、職員間で情報共有を行い、席の配置換えなど行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具や写真を飾っている。	居室は利用者や家族と相談しながら、使い慣れた家具や好みの物を持ち込み、利用者が心地よく過ごせるように配慮している。クロゼットや洗面台が設置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置や、自由に取れるよう本や雑誌などを置いている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと